

ITを利用した業務効率を考える

はじめに

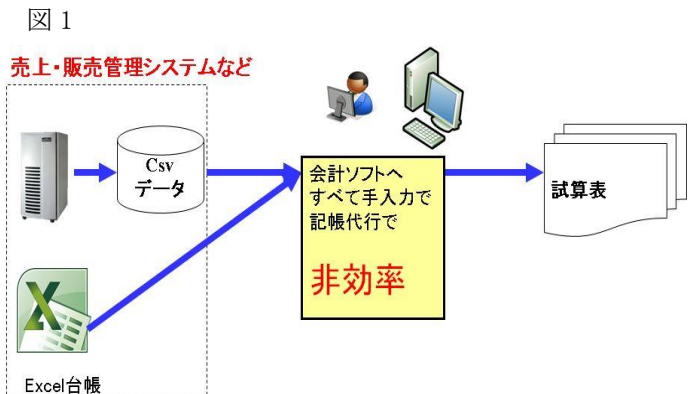
皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り申し上げます。さて、今月と来月は IT を利用した業務効率化について解説します。ただし上場企業のように、IT を利用し高度に業務効率化が徹底されている会社は除きます。公認会計士から見て、様々な企業を訪問すると IT を利用すれば簡単にかつ明日にでも業務効率が上がると感じる会社はいっぱいあります。それも Excel でちょっとした関数を書くだけで確実に残業時間が減り、みんな喜ぶのと思うことは 1 週間に一度はあります(大げさな表現ではなく本当です)。

事例 年商 15 億円の旅館業の場合

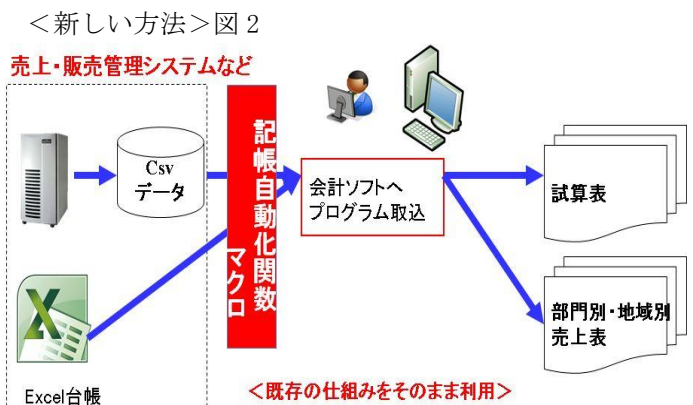
年商 15 億円と中規模から大規模な旅館を営んでいる会社です。この会社の場合、税理士に月額 15 万円で記帳代行を外注していました。年間 180 万円にもなります。この 180 万円は、記帳代行料だけで、税務顧問料は別料金です。税務顧問料と記帳代行料の合計で、かなりの金額を税理士に毎年支払っています。何とか安くしてもらえないかと私のところに依頼があったのがきっかけです。まずこの会社のシステム導入状況のヒアリングから始めました。驚いたことに予約管理システムや食材仕入、従業員の勤怠システム、売上管理(予約管理)システム、飲食 POS などかなりの IT 化が進んでいます。でも一向に業務効率に結びつかず勤務時間も減ってないのです。1 日中視察し、従業員にインタビューした結果、主な原因が分かりました。システムごとのデータ連携がなかったのです。ですから、単純にデータ連携をしてあげれば良いのです。

バラバラのシステムをデータ連携で解決

最近のシステムは、Excel(csv)ファイルとしてデータを取り出すことができます。取り出したデータをほんのちょっと加工すれば、自動で会計システムへ取り込むことができます。従来の税理士による記帳代行の方法は、システムごとのデータをすべて紙に出力し、税理士が会計システムへ仕訳を手入力して、非効率で時間もかかっていました(図 1)。



これをボタン一つで会計システムへ取り込める csv ファイルを作成できる Excel のマクロプログラムを私が作成しました(図 2)。



細かい点は他にもありましたが、マクロプログラムを書くだけで、この会社は自計化に成功しました。おかげで記帳代行料は年間 10 万円まで削減することができました。従来は年間 180 万円の記帳代行料でしたから、年間 170 万円の節約です。さらに売上管理システムに入力されたデータを元に料理部門・宴会部門など従来はできなかった部門別損益もすぐに作成できるようになりました。この結果、経営者は意思決定に有用な資料をもとに、自社の経営資源(ヒト・モノ・カネ)をどの部分に重点的に配分するかも判断できるようになりました。

今回は旅館業でお伝えしました。Excel を使った業務効率化は建設業にも応用することができます。次回は Excel を使った建設業の業務効率化についてお伝えします。